

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習】

#### 1. 対象 知的障害 高等部 木工班

本校高等部の作業学習B（自主生産作業）は、3年間同じ作業班に継続して取り組む。高等部全体で、毎年11月と2月に販売を行い、それぞれの班で自分たちが作った製品を販売している。1年次に全ての班の見学を行い、生徒の希望アンケートを基に班の編成を行っている。2、3年生は前年度からの技術の積み上げや年間の活動予定に見通しをもち取り組むことが期待できる。

木工班では、1学期は、2、3年生と1年生を別々の単元を設定し取り組んだ。2、3年生は各々切断や磨きなどの様々な活動に取り組み教師からの評価を受けて、自己の力を再確認する機会とした。1年生は、木工班で安全に作業に取り組むための約束や道具の使い方、働くことの基本的なルールやマナーなどを学習した。2学期からは、工程ごとに小グループに分かれて分業で、本格的に製品作りに取り組んでいく。

#### 2. 単元名「 高等部製品販売会（仮名）に向けて～自分の力を製品に活かそう～」（全14時間）

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	○完成までの工程や必要な資材が分かり、自分の担当する工程を、一人で作業している。
思考力, 判断力, 表現力等	○進行表を見たり、友達からの依頼を受けたりして、今やるべきことを判断して取り組んでいる。
学びに向かう力, 人間性等	○自分から進行表を手掛かりに、取り組む仕事を判断して作業をしようとしている。

#### 4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

#### 5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
・今日はどの製品の資材の切り出しをすればよいだろうか。

<b>考えるための材料</b>	
☆どの長さの資材が必要か。 ○製品に必要な資材が書かれた進行表。	☆いくつ切り出すべきなのか。 ○切り出しが終わった製品数が分かる生産表。 ○一つの製品を作るにあたり、終わっている工程が分かる指示書。
<b>想定される活動</b>	
・進行表を見ながら、必要な資材の長さや本数を判断する。	・生産表と指示書を確認しながら、足りない資材を自分で確認したり、友達と話し合ったりして切断するものを決める。 ・切り出した後にその分を生産表に記入する。

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

グループミーティングでは、生徒同士で各々が担当する切り出しを相談するようにする。全員で何の切り出しを優先的に行うべきか、意見交換を行いながら、各自のその日の担当を決めるようにする。

自分の担当した資材の切り出しが終わったときには、終わっていない人の手伝いをするようにする。その際には、その日の担当者に言葉を掛けて、何を何本手伝うのかを必ず確認する。

### 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・グループの友達や自分の作業を決めるときには、自分から進行表を確認することができる。
- ・進行表を確認して、優先順位を考えてその日の仕事を考えることができる。
- ・自己の担当する仕事が終わったときには、友達に言葉を掛けて次の仕事に移ることができる。